地域・コミュニティ活動助成

未来あらしま

島根県安来市

無人駅となったJR荒島駅を活用した地域の拠点づくりとコミュニティを育む活動

活動エリア

JR荒島駅、カフェ利用も想定して改修した待合室での主要メンバー一同

木造で風情のあるJR荒島駅駅舎

団体設立経緯

島根県安来市にある**荒島地区**では、交流センターを核にした地域活動が活発です。2018年度に交流センターの呼びかけで、地域の課題と未来への取り組みについて話し合うワークショップが住民を対象に企画されました。1年間を通じたそのワークショップで明確になってきた複数の課題に取り組むため、安来市社会福祉協議会の支援を得て、参加者が中心となり荒島の未来を考える「**未来あらしま**」という団体を立ち上げました。

改装前の待合室にて、関係団体と意見交換。何度もの協議を重ねて、リノベーション計画に理解を得た

活動概要と活動対象範囲

●団体の活動拠点づくり

未来あらしまとしての活動拠点をつくるため、JR西日本・山陰本線の荒島駅舎内にあった**旧職員休憩室**を改装しました。

●地元の島根県立情報科学高等学校（以下、情報科学高校）との連携

活動に際して、協力的な中心メンバーだけでは考えに偏りが出てくると考え、**地元高校生と連携**して構想段階から改装作業まで進めました。

●荒島駅のリノベーション

老朽化が進行する荒島駅の**待合室**を改装して、人が集まりやすい場所としました。

活動に至った理由や背景

荒島地区の人口は3700人、交流センターを中心に複数のボランティア団体が活動するなど、比較的住民の活力がある地区です。しかし近年では高齢化率が37%を超え、少子高齢化が大きな課題となってきています。そのような状況下で、私たちは「人の交流が活気を生み出す」との共通認識を持ち、「新たな交流の機会を創出し、地域の活気を生み出したい」と考え、現在無人駅となり老朽化が進むJR荒島駅の活用の模索に至りました。

活動内容と成果

●関係団体との協議

人の交流を図る居場所づくりをするために、若い世代の利用も多い「**駅**」を交流の起点として活用できれば、新たな大きな力が生まれるのではないか、とJR荒島駅に着目しました。調べてみると、JR荒島駅舎はJR西日本から安来市に無償譲渡され、安来市の管理物件となっていました。そして安来市は、荒島地区の地域団体である**荒島地区活性化推進協議会**（以下、活性化協議会）に駅舎の指定管理を委託しているという関係性でした。

そこで私たちは活性化協議会と連携をしたうえで、指定管理契約の更新や内容の変更について**安来市商工観光課**の方にアドバイスをいただきながら調整し、さらに**JR西・山陰地域振興本部**と改装作業やその後の活用について、何度も継続的に協議を重ねました。その結果、最終的には改装計画について理解、了承をいただくことができました。

また、協議を通じて活性化協議会の駅の管理を担当する会員さんたちと良い関係をつくることができ、その後の改装作業や式典において協力体制を築くこともできました。今後も各団体とは日頃からこまめに情報の共有をはかりながら、駅舎の有効活用を進める予定です。

●団体の活動拠点づくり

活動のはじめとして、団体の活動拠点をつくろうと、JR荒島駅舎の**旧職員休憩室の改装**に着手しました。

JR荒島駅は木造の無人駅です。建築から相当な年月が経過し、駅舎内の待合室もあちらこちらに傷みが見られるようになっていました。また、駅舎には旧職員が使用していた休憩室や炊事ができる土間がありましたが、長らく荷物置き場としてのみ使用されていましたので、その休憩室を改装して簡単な会議ができる事務室にしようと考え、取り組むこととしました。

改装にあたり、今後の使用用途を考えて和室から洋室へと変更し、段差もなくすよう休憩室の床を下げることとしました。改装終了後には

（左）まず旧職員休憩室の改装に取り組んだ　（右）改装後は会議室として活用

（上）土間部分の改修に向けて不用品を片付ける　（下）壁に張ったボードに塗装を施し、きれいに整備

机や椅子を入れて、会議ができる体制が整いました。その後の活動においても、メンバー同士の会議のみならず、対外的な打ち合わせなどにも活用する事務室をつくることができました。

●情報科学高校との連携

私たち居場所づくりのメンバーは荒島地区在住の大人が主力メンバーであり、荒島駅舎を主に活用する10代の高校生の意見をどのように取り入れていくのかという課題を持っていました。当初の計画では、ワークショップを企画して参加を募り、荒島駅舎改装計画へのユニークなアイデアを出してもらい実現につなげようという考えでしたが、2020年度はコロナウイルスの感染拡大防止のため、不特定多数が参加する会議などは開催が困難と判断しました。そこで私たちは、荒島駅で乗降する地元の**情報科学高校**に着目。4月に学校に対して改装などについての協力を打診したところ、生徒に「地域活動を通じて地域への愛着を育んでほしい」という学校の教育方針と通じるものがあるということで、前向きな返事を得ました。

担当の先生と協議を重ねた結果、6月から3年生の生徒たち8名が、**授業「課題研究」**の「調査研究班」の対象として取り組んでくれることになりました。8名はまず荒島駅に視察に来て、アイデアを出してくれました。7月には私たちメンバーが高校を訪問して授業に参加し、さらに2021年1月には、休日にも関わらず生徒たちが改装工事に参加して壁にペンキを塗るなど、相互に協力し合いながら活動ができました。

授業の一環として取り組みに協力する高校生

生徒たちはその後、2月の課題研究授業の発表会で、駅でのイベント案や私たちとの連携を通じた成果を発表してくれました。情報科学高校との協力については、今後も地域学習という視点から連携を取り合っていくことを担当の先生と確認しており、今後は荒島駅を活用したイベントの企画・実施などを考えています。

●荒島駅駅舎のリノベーション

JR、安来市との改装計画の協議を通し、高校生を交えたメンバー間の話し合いの結果、明治末期に開業し、東京駅より5年も古い歴史あるJR荒島駅の駅舎を活かし、温かみのあるカフェのような空間にしたい、という方向性が決定しました。そのうえ早い段階で、「将来はカフェなどとして飲食を提供したら荒島駅がもっとにぎやかに楽しく、かつ、列車の乗客も増えるのではないか」との考えもあり、改装工事に際しては将来を見越した計画を立案しました。改装対象は、**土間部分**と**待合室**の2部屋でした。

土間部分には水道が通っていたため、将来の厨房とするイメージで改装を始めました。この部分は駅のホームに隣接しており、壁を壊すことができなかったので、古い壁の上から新しい壁を取り付けました。古い壁の上に木材を打ち付けて下地をつくり、そこに石膏ボードを張り付けて壁とします。その後ボードのすき間をパテで埋め、マスキングを施し塗装します。塗装に際してはメンバーのほか、地域の住民の方や連携している高校生も手伝いに来てくれました。

待合部分の改装イメージは「温かみのある落ち着くカフェ」でした。最初は不要な壁を壊すことから始まりました。今回はあくまで改装であるため、なるべく元の構造物を残す必要があります。いくら計画段階で許可を得ているとはいえ、建物の壁を壊すことに慣れていないメンバーはおっかなびっくり作業をしました。

壁材をはがすとそこに棚の跡があったり、これまでも幾度か改装したと思われる跡が見られたりして、荒島駅舎の長い歴史を感じました。そこで、一部の壁は取り外さずに残して活かし、古い配電盤をインテリアにするなど、利用者の方にも駅舎の歴史を感じてもらえる工夫を施しました。また、今後の活用を見越して窓際にカウンターを設置。壁は手作業でしっくいを塗って仕上げることとしました。鏝（こて）など使ったことのないメンバーが腕をふるって、味のある(!?)仕上がりとなりました。

1. 改装前の待合室。メンバーで片づけにあたる　2. 改装中。思い切って壁を取り壊す　3. 壁のしっくい塗り。近所の親子も手伝いに　4. 休日に壁塗りに駆けつけた情報科学高校生　5. 床を張った上に塗料で仕上げる　6. 改装が完了した待合室

改装工事に際しては、幸いにも専門技術を持ったメンバーがおり、監督として指導を受けながらの作業となりました。ほとんどのメンバーは経験がなく、道具の使い方から習わなければなりませんでした。作業場所が狭いことから、作業には少人数で臨み、他のメンバーはサポートに回るというスタイルを取りました。

塗装時には地域の住民の方も駆けつけて手伝っていただいたり、差入れの品々をいただくなど、改装作業自体が1つの地域活性化のイベントとして捉えられた感があります。また、地区内の材木業、塗装業など専門業者の方々の力をお借りして、手取り足取り指導を受けることができました。皆が楽しみながら作業に参加したことも、収穫の1つです。

●完成記念式典の実施

駅のリノベーションが完成した後、3月28日に**完成記念式典**を開きました。参加者は改装作業に参加したメンバーに加え、来賓として安来市副市長、地元選出の島根県議会議員、安来市社会福祉協議会長、情報科学高校の先生のほか地元の荒島地区老人会長、荒島地区自治会連絡協議会長、荒島交流センター館長の出席をいただきました。代表からの挨拶、部長からの経緯報告と今後の展望について紹介し、式典後に実際に改装部分を見学していただきました。

課題と解決方策

課題：改装許可の取得

JR荒島駅の駅舎は、もともとJRの所有であったものが安来市に譲渡されたもので、安来市は指定管理という形で荒島地区活性化推進協議会という地域団体に管理を委託しています。待合室を改装する際には、そのすべてに改装計画を提示して、理解を得たうえで許可を受ける必要がありました。関係団体とは会合を複数回重ねる中で問題点を洗い出して議論し、最終的に改装実施にこぎつけることができました。

課題：若い世代の協力

当初は、次代を担う若い世代の意見を取り込むために複数回のワークショップを不特定多数に呼びかけて実施し、リノベーションに参画してもらう計画でした。しかし、世界的なコロナウイルス蔓延のため、断念せざるを得ませんでした。それに代わり、荒島駅の利用者が多い地元の情報科学高校に協力を依頼しました。結果として3年生の授業に組み込んでいただき、深く関わってもらうことができ、これも大きな収穫でした。

今後の予定

●駅での販売体制の構築

荒島駅の周辺にはお店がありません。駅で気軽に飲食や地元食品などの販売ができるように、厨房を整備して実施できる体制にしたいと考えています。

●情報科学高校との連携

今回できた「ご縁」を活かし、今後も情報科学高校との連携を続けます。駅を活用したイベントの提案や実施などを考えています。

●イベントの実施

地区や世代を超えた新たな交流を創出するために、展示や演奏会など様々な楽しいイベントを実施することを考えています。

未来あらしま

2019年7月設立／メンバー数：36人／代表者：勝部 幸治（かつべ・ゆきはる）

私たちは、自分たちの住む荒島地区で、子育て世代からシニア世代までのあらゆる世代、地区内外の方からも「行きたい」「住みたい」と思われるような魅力あふれる人づくり・まちづくりを目指しています。